

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Second home放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃からお子さまの状況を保護者様に伝え、お子さまの健康や発達の状態について共通理解を深めること	支援後(帰りの引き渡し時)にその日の活動の様子や出来たことなどお伝えしている。 保護者様から相談事などある場合は、時間を設け、保護者様と話し合いを行い、共通理解を深めている。	モニタリングなどの面談以外にも保護者様の相談事などあれば、家族支援として面談等の時間を充実させ、共通理解を深めていく。
2	風通しが良い職場の雰囲気作り	毎日のスタッフミーティングや日々の会話の中で、子ども達への療育のことや職員の悩みや困り事の確認を行い、働きやすさを追及している。 お互いの強みを活かせるよう役割分担を行いながら、支援や日々の業務にあたっている。 毎月行う研修では、外部講師を招いて健康面や身体の使い方など学ぶ機会を作っている。	コミュニケーションを大切に、職員の強みを生かした支援ができるよう連携を図っていく。
3	活動スペースの広さ	日々の活動で使用している主となるスペースは、死角もなく子供達がのびのびと過ごすことができ、疲れてしまった子や気持ちの切り替えが必要な子などはすぐに個室(静養室)に移動できるような環境整備を行っている。 また、大きく体を動かす活動は、机や椅子を移動し広いスペースを使用している。	療育スペースが広いため子供達が走り回ってぶつからない様、声かけなどをしていく。また活動内容によっても気にかけていく。
4	◆幅広い年齢層の他児との関わり 小学校1年生から中学3年生までのお子さまと一緒に活動している	年齢の異なる他児と過ごすことで、日常生活に必要なスキル等を真似しながら習得したり、関わり方(上下関係)を学んだり出来るよう、他児との関わりを大切にしている	事業所内では、年上のお子さまには、お兄さん、お姉さんとして役割を与えていくこと。 事業所外では、公園など公共の場などで地域のお子さまと関わることが出来る活動を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校授業日の外出行事について	学校休業日、学校休校日での外出行事は定期的には実施出来ているが、学校授業日の外出行事が出来ていない。	下校時刻が違うため、到着時間に差がある。全体では出来なくても、小集団で出来るよう検討していく。 また学校の行事ごとで早帰りなどを利用して行っていくことも検討していく。
2	緊急時の対応マニュアルや避難訓練実施の様子が十分に周知されていない。	緊急時のマニュアル作成や定期的な避難訓練は実施していましたが、保護者の皆さまへ十分に周知するための手段が不十分でした。	保護者様へお知らせやお便りを活用し、避難訓練の実施や当日の様子について、今後はより分かりやすく周知していく。
3			